

# 歯科衛生科学生の障害児者に関する意識調査

## — 3年間の教育後の変化 —

### A Questionnaire Survey on People with Disabilities of Dental Hygiene Students

#### — Findings after Three Year Education —

小澤 晶子\*

Akiko OZAWA

#### 緒言

日本の障害者施策は、昭和56年の国際障害者年を契機とし、10年間で1つの区切りとして計画を策定し、推進を図っている。平成22年度は、平成15年度から24年度までを期間とする「障害者基本計画」の8年目である。平成17年10月には「障害者自立支援法」が成立し、障害があっても地域で安心して暮らせる社会をめざしている<sup>1)</sup>。一方、障害者の現状は、平成21年度障害者白書によると、前回調査時よりも障害児者数が増加している<sup>2)</sup>。障害者基本計画の基本的な考え方である「ノーマライゼーション」、「共生社会」の実現のために、歯科医療関係者も地域保健の中でこれまで以上の取り組みが必要であると考えられる。そのためには、医療だけでなく、地域保健の中に障害者の口腔の健康を位置付けて教育していくことが大切であると考えられる<sup>3-6)</sup>。歯科衛生士は歯科医師とともに、地域保健の重要な担い手であり、歯科衛生科学生に対して障害児者教育をどのように進めていくかが問題である。障害児者教育を検討するために、歯学部学生に対して、どのような意識を障害児者に関して持っているかについて把握する調査が実施されている<sup>7-9)</sup>。しかし、歯科衛生士になることを目的とした学生に対しての意識調査は近年実施されていなかった<sup>10)</sup>。そこで、まず歯科衛生科へ入学した学生の障害児者に対する意識調査を行い、内閣府で実施した世論調査の結果と比較し、障害児者教育をどのように進めていくかを検討した<sup>11-13)</sup>。

今回は、歯科衛生科入学時の障害児者に対する意識調査の結果と卒業時の結果を比較して、歯科衛生科での3年間でどのように障害児者への意識が変化したか、今後歯科衛生科学生に対して障害児者教育をどのように進めていくかを検討した。

#### 対象ならびに方法

歯科衛生科入学時の障害児者に対する意識調査は、平成19年度歯科衛生科入学学生140人(女性)を対象に実施し

た。対象者の平均年齢は18.3歳であった。調査時期は平成19年6月に実施した。歯科衛生科卒業時の障害児者に対する意識調査は、入学時に調査した学生に対して、平成22年2月に実施した。質問票は、平成19年2月に実施された「障害者に関する世論調査」を一部改変し、質問項目を追加して作成した<sup>12)</sup>。質問項目は、障害者基本計画の基本的な考え方について5項目、障害者施策について5項目、障害者との触れ合い、体験について4項目、知識に関すること8項目、現在の心境について2項目とした。平成19年度歯科衛生科入学学生の入学時と卒業時との比較において、統計分析にはMann-WhitneyのU検定、 $\chi^2$ 検定を用いた。

#### 結果

##### 1. 障害者基本計画の基本的な考え方について

図1に「共生社会」という考え方を知っていますか。の質問に対する結果を示す。

入学時は、知らないと答えた人が最も多く66人(47.1%)、言葉だけ聞いたことがあると答えた人は57人(40.8%)、知っているか答えた人は最も少なく17人(12.1%)であった。卒業時は、知っているか答えた人が最も多く66人(47.1%)、言葉だけ聞いたことがあると答えた人は51人(36.4%)、知らないか答えた人は最も少なく23人(16.4%)であった。入学時と卒業時の結果において、統計学的に有意差が認められた( $p<0.01$ )。

図2に「共生社会」の考え方(ノーマライゼーション)についての結果を示す。

入学時は、そう思うと答えた人が最も多く114人(81.4%)、どちらともいえない22人(15.7%)、そう思わないと答えた人は最も少なく4人(2.8%)であった。卒業時は、そう思うと答えた人が最も多く130人(92.9%)、どちらともいえないと答えた人は7人(5.0%)、そう思わないと答えた人は最も少なく3人(2.1%)であった。入学時と卒業時の結果において、統計学的に有意差が認められた( $p<0.05$ )。

図3に「障害者週間」を知っていますか。の質問に対す

\* 〒230-8501 横浜市鶴見区鶴見2-1-3 鶴見大学短期大学部歯科衛生科

Department of Dental Hygiene, Tsurumi University of Junior College, 2-1-3 Tsurumi, Tsurumi-Ku, Yokohama 230-8501, Japan.

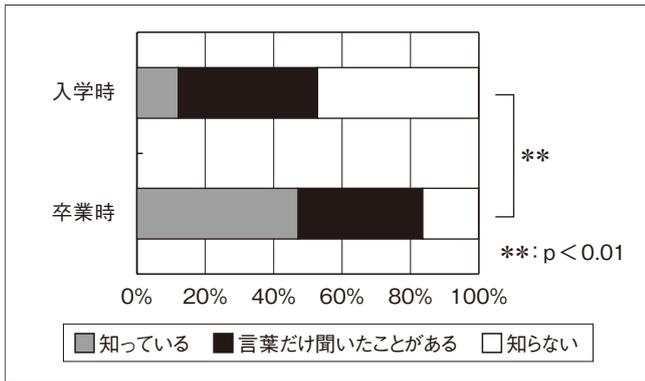


図1 「共生社会」という考え方を知っていますか。

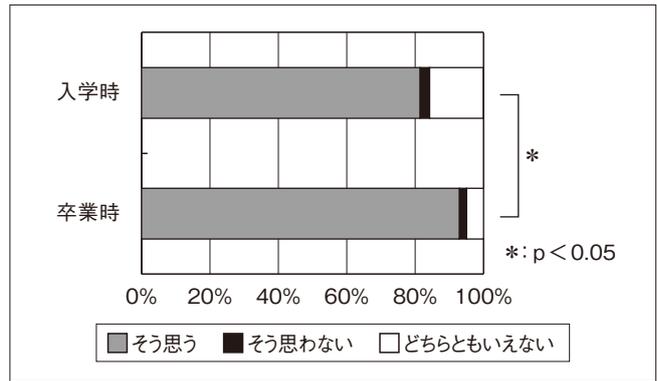


図2 「共生社会」の考え方について

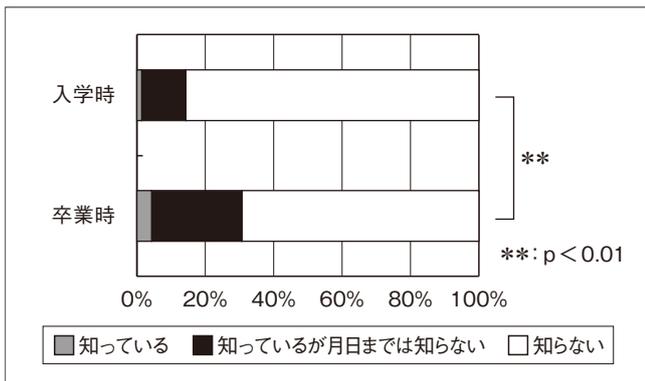


図3 「障害者週間」を知っていますか。

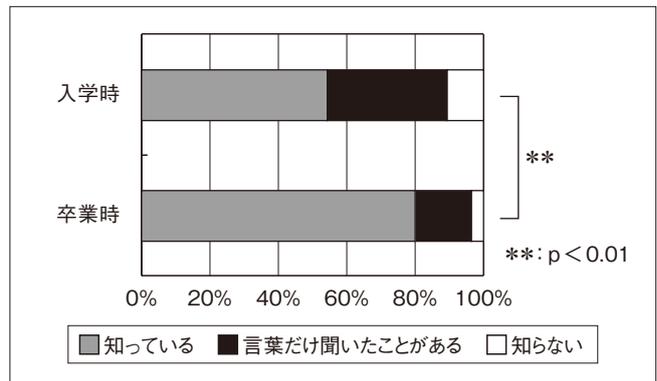


図4 「社会のバリアフリー化」という考え方を知っていますか。

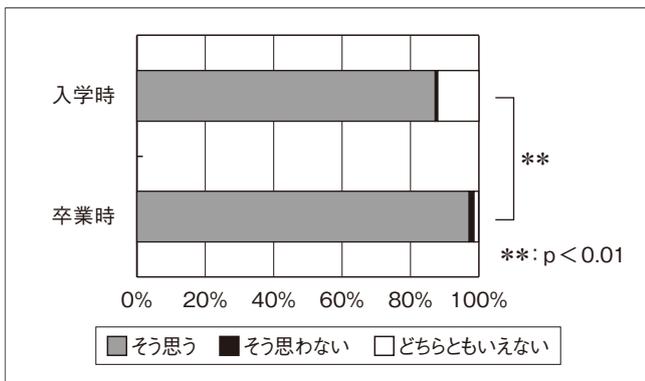


図5 「社会のバリアフリー化」の考え方について

る結果を示す。

入学時は、知らないと答えた人が最も多く120人 (85.7%)、知っているが月日までは知らないと答えた人は18人 (12.9%)、知っていると答えた人は最も少なく2人 (1.4%)であった。卒業時は、知らないと答えた人が最も多く97人 (69.3%)、知っているが月日までは知らないと答えた人は37人 (26.4%)、知っていると答えた人は最も少なく6人 (4.3%)であった。入学時と卒業時の結果において、統計学的に有意差が認められた ( $p < 0.01$ )。

図4に「社会のバリアフリー化」という考え方を知っていますか。の質問に対する結果を示す。

入学時は、知っていると答えた人が最も多く76人 (54.3%)、言葉だけ聞いたことがあると答えた人は49人

(35.0%)、知らないと答えた人は最も少なく15人 (10.7%)であった。卒業時は、知っていると答えた人が最も多く112人 (80.0%)、言葉だけ聞いたことがあると答えた人は23人 (16.4%)、知らないと答えた人は最も少なく5人 (3.6%)であった。入学時と卒業時の結果において、統計学的に有意差が認められた ( $p < 0.01$ )。

図5に「社会のバリアフリー化」の考え方について。の質問に対する結果を示す。

入学時は、そう思うと答えた人が最も多く122人 (87.2%)、どちらともいえないと答えた人は17人 (12.1%)、そう思わないと答えた人は最も少なく1人 (0.7%)であった。卒業時は、そう思うと答えた人が最も多く136人 (97.1%)、どちらともいえないと答えた人は2人 (1.4%)、そう思わないと答えた人は2人 (1.4%)であった。入学時と卒業時の結果において、統計学的に有意差が認められた ( $p < 0.01$ )。

## 2. 障害者施策について

図6に「障害者基本法」を知っていますか。の質問に対する結果を示す。

入学時は、知らないと答えた人が最も多く82人 (58.6%)、言葉だけ聞いたことがあると答えた人は51人 (36.4%)、内容を含めて知っていると答えた人は最も少なく7人 (5.0%)であった。卒業時は、言葉だけ聞いたことがあると答えた人が最も多く98人 (70.0%)、知らないと答えた人は28人 (20.0%)、内容を含めて知っていると答えた人は最も少な

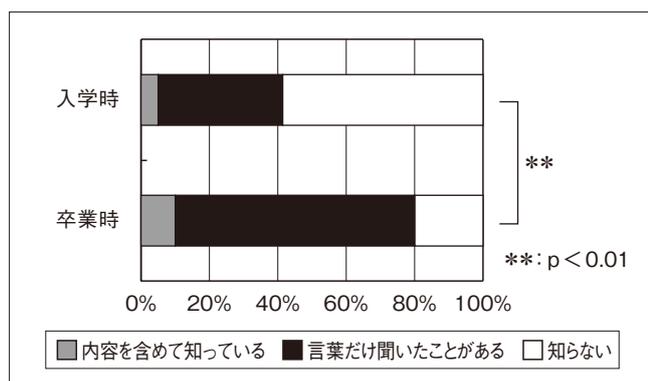


図6 「障害者基本法」を知っていますか。

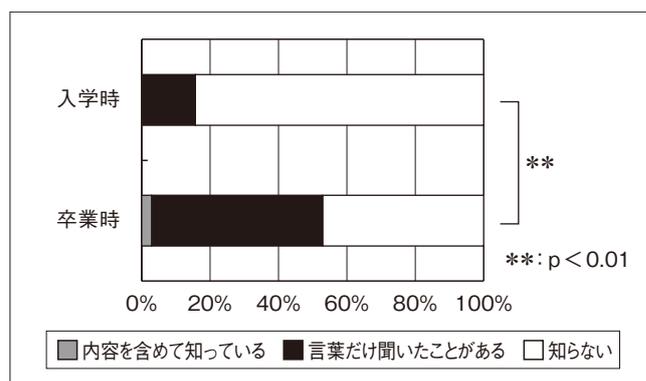


図7 「障害者基本計画」を知っていますか。

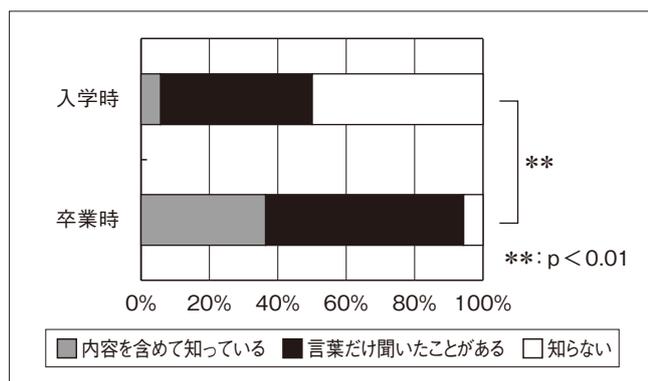


図8 「障害者自立支援法」を知っていますか。

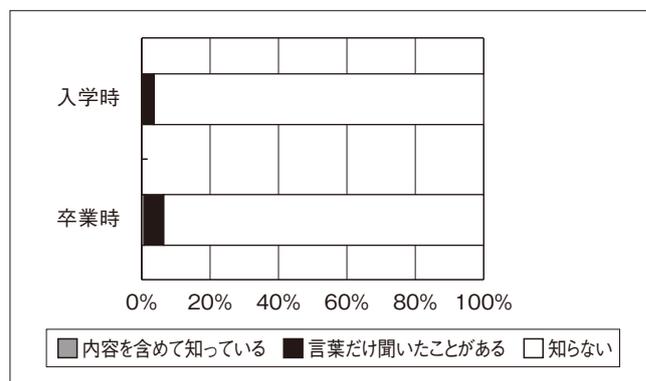


図9 「アジア太平洋障害者の十年」を知っていますか。

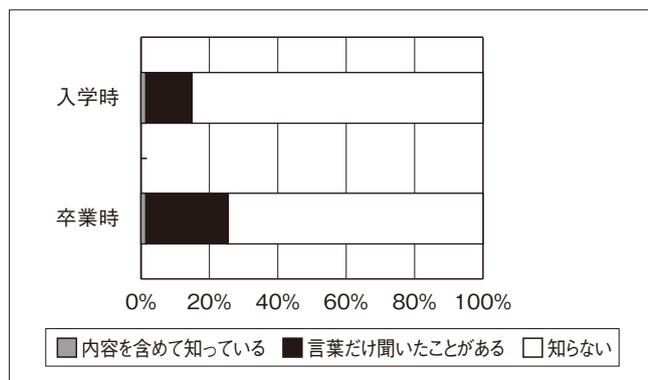


図10 国連は平成18年12月「障害者権利条約」を採択しましたが、あなたはこのことを知っていますか。

く14人(10.0%)であった。入学時と卒業時の結果において、統計学的に有意差が認められた ( $p < 0.01$ )。

図7に「障害者基本計画」を知っていますか。の質問に対する結果を示す。

入学時は、知らないと答えた人が最も多く118人(84.3%)、言葉だけ聞いたことがあると答えた人は22人(15.7%)、内容を含めて知っていると答えた人は0人(0.0%)であった。卒業時は、言葉だけ聞いたことがあると答えた人が最も多く81人(50.0%)、知らないと答えた人は51人(47.1%)、内容を含めて知っていると答えた人は最も少なく8人(2.9%)であった。入学時と卒業時の結果において、統計学的に有意差が認められた ( $p < 0.01$ )。

図8に「障害者自立支援法」を知っていますか。の質問に対する結果を示す。

入学時は、知らないと答えた人が最も多く70人(50.0%)、言葉だけ聞いたことがあると答えた人は62人(44.3%)、内容を含めて知っていると答えた人は最も少なく8人(5.7%)であった。卒業時は、言葉だけ聞いたことがあると答えた人が最も多く81人(57.9%)、内容を含めて知っていると答えた人は51人(36.4%)、知らないと答えた人は最も少なく8人(5.7%)であった。入学時と卒業時の結果において、統計学的に有意差が認められた ( $p < 0.01$ )。

図9に「アジア太平洋障害者の十年」を知っていますか。の質問に対する結果を示す。

入学時は、知らないと答えた人が最も多く135人(96.4%)、言葉だけ聞いたことがあると答えた人は5人(3.6%)、内容を含めて知っていると答えた人は0人(0.0%)であった。卒業時は、知らないと答えた人が最も多く131人(93.6%)、言葉だけ聞いたことがあると答えた人は8人(5.7%)、内容を含めて知っていると答えた人は最も少なく1人(0.7%)であった。入学時と卒業時の結果において、統計学的に有意差はなかった。

図10に国連は平成18年12月「障害者権利条約」採択しましたが、あなたはこのことを知っていますか。の質問に対する結果を示す。

入学時は、知らないと答えた人が最も多く119人(85.1%)、言葉だけ聞いたことがあると答えた人は19人(13.5%)、内

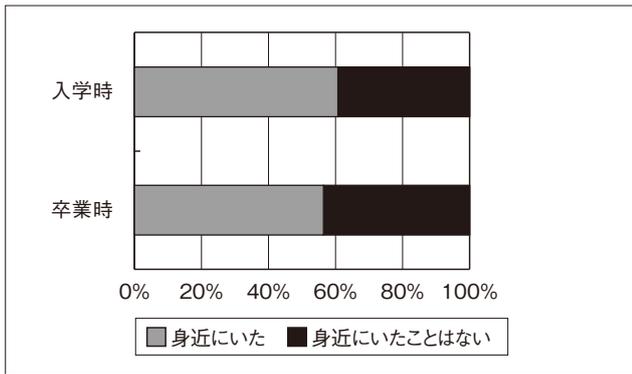


図11 あなたの身近に障害のある方がいますか。またはこれまでにいたことがありますか。

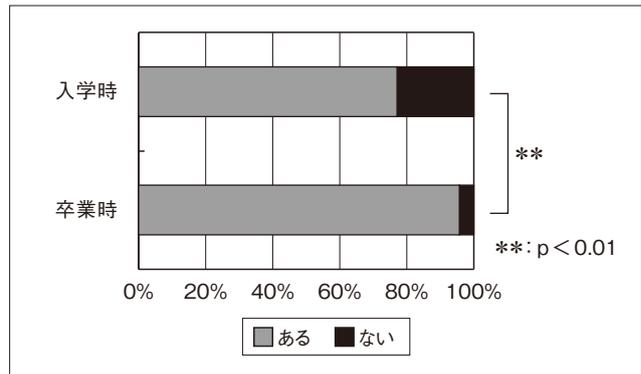


図12 障害のある方と話したり、手助けをしたことがありますか。

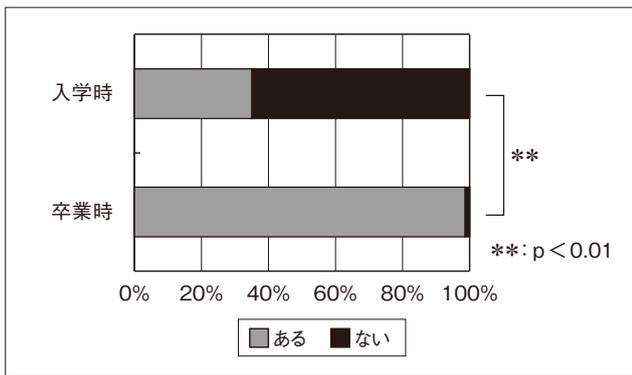


図13 障害児者について学んだことがありますか。

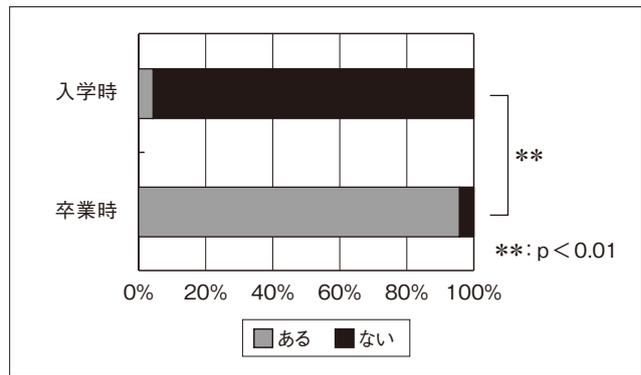


図14 障害児者の口腔内を観察したことがありますか。

容を含めて知っている」と答えた人は2人 (1.4%)であった。卒業時は、知らない」と答えた人が最も多く104人 (74.5%)、言葉だけ聞いたことがある」と答えた人は34人 (24.1%)、内容を含めて知っている」と答えた人は最も少なく2人 (1.4%)であった。入学時と卒業時の結果において、統計学的に有意差はなかった。

### 3. 障害者との触れ合い、体験について

図11にあなたの身近に障害のある方がいますか。またはこれまでにいたことがありますか。の質問に対する結果を示す。

入学時は、身近にいた」と答えた人は85人 (60.7%)、身近にいたことはない」と答えた人は55人 (39.3%)であった。卒業時は、身近にいた」と答えた人は79人 (56.4%)、身近にいたことはない」と答えた人は61人 (43.6%)であった。入学時と卒業時の結果において、統計学的に有意差はなかった。

図12に障害のある方と話したり、手助けをしたことがありますか。の質問に対する結果を示す。

入学時は、ある」と答えた人は108人 (77.1%)、ないと答えた人は32人 (22.9%)であった。卒業時は、ある」と答えた人は134人 (95.7%)、ないと答えた人は6人 (4.3%)であった。入学時と卒業時の結果において、統計学的に有意差が認められた ( $p < 0.01$ )。

図13に障害児者について学んだことがありますか。の質問に対する結果を示す。

入学時は、ある」と答えた人は49人 (35.0%)、ないと答

えた人は91人 (65.0%)であった。卒業時は、ある」と答えた人は138人 (98.6%)、ないと答えた人は2人 (1.4%)であった。入学時と卒業時の結果において、統計学的に有意差が認められた ( $p < 0.01$ )。

図14に障害児者の口腔内を観察したことがありますか。の質問に対する結果を示す。

入学時は、ある」と答えた人は6人 (4.3%)、ないと答えた人は134人 (95.7%)であった。卒業時は、ある」と答えた人は134人 (95.7%)、ないと答えた人は6人 (4.3%)であった。入学時と卒業時の結果において、統計学的に有意差が認められた ( $p < 0.01$ )。

### 4. 知識に関する項目

図15に「身体障害」について知っていますか。の質問に対する結果を示す。

入学時は、内容を含めて知っている」と答えた人が最も多く76人 (54.3%)、言葉だけ聞いたことがある」と答えた人は62人 (44.3%)、知らない」と答えた人は最も少なく2人 (1.4%)であった。卒業時は、内容を含めて知っている」と答えた人が最も多く125人 (89.3%)、言葉だけ聞いたことがある」と答えた人は14人 (10.0%)、知らない」と答えた人は最も少なく1人 (0.7%)であった。入学時と卒業時の結果において、統計学的に有意差が認められた ( $p < 0.01$ )。

図16に「知的障害」について知っていますか。の質問に対する結果を示す。

入学時は、内容を含めて知っている」と答えた人が最も多

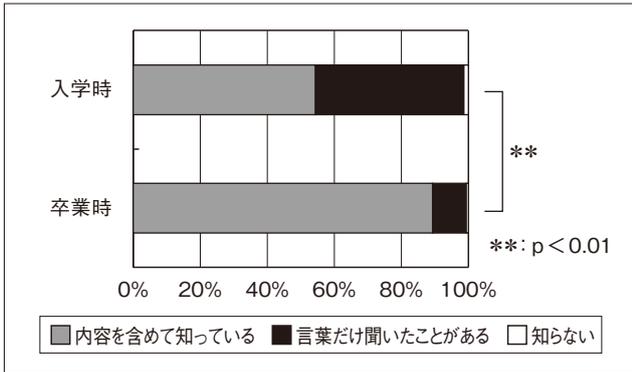


図15 「身体障害」について知っていますか。

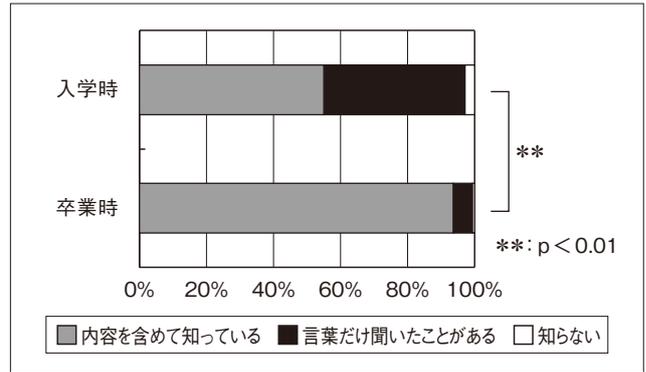


図16 「知的障害」について知っていますか。

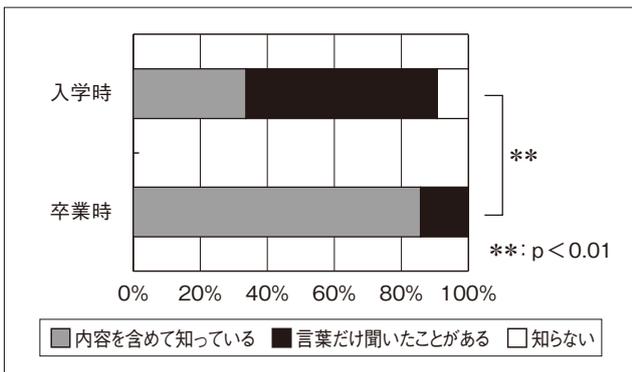


図17 「精神障害」について知っていますか。

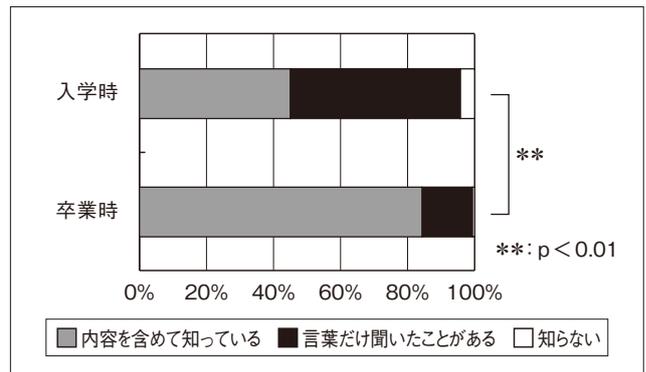


図18 「発達障害」について知っていますか。

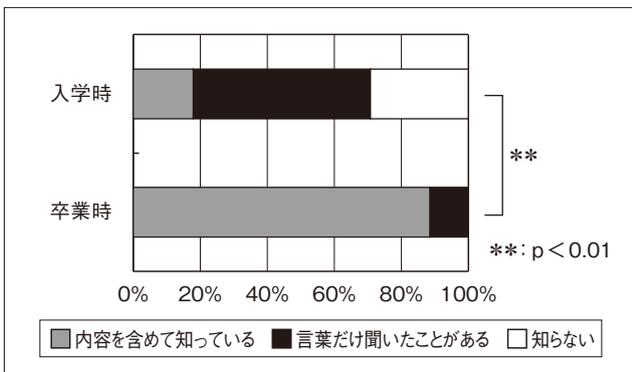


図19 「脳性麻痺」について知っていますか。

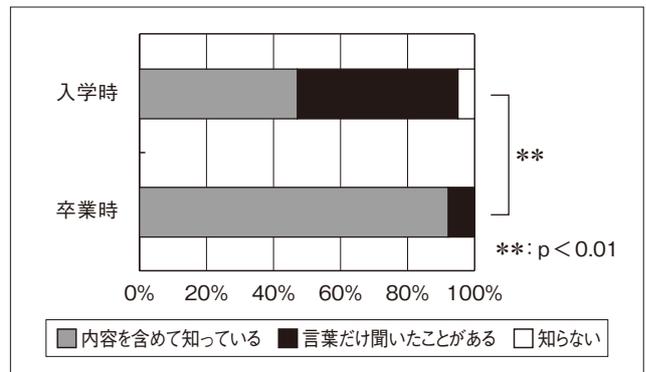


図20 「ダウン症候群」について知っていますか。

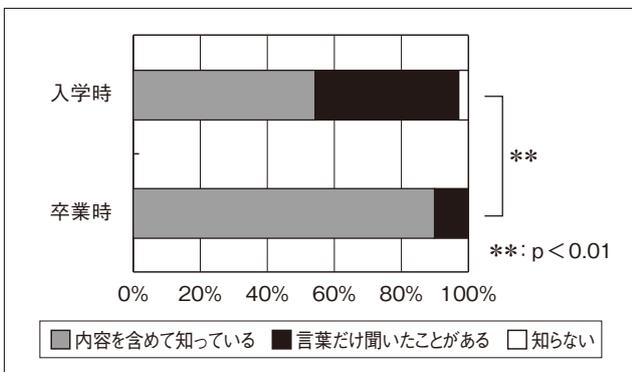


図21 「自閉症」について知っていますか。

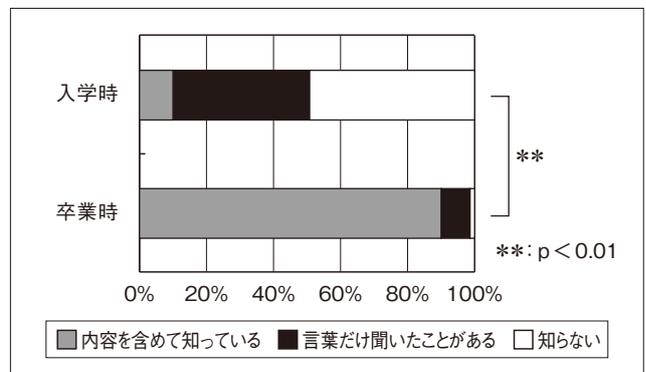


図22 「摂食嚥下障害」について知っていますか。

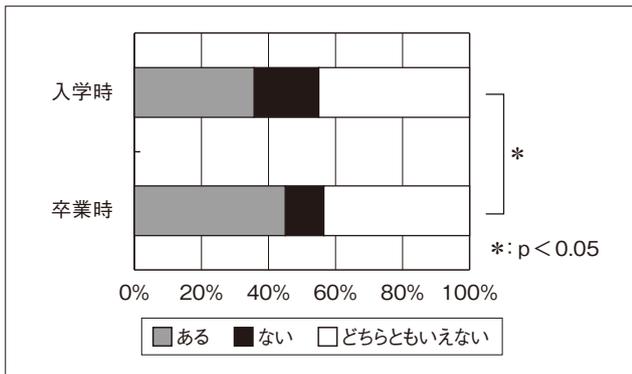


図23 障害者歯科に興味がありますか。

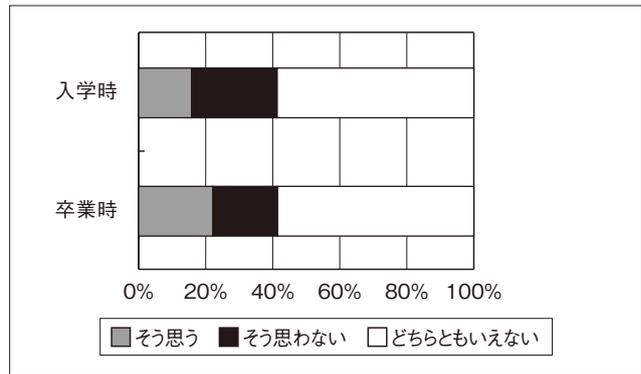


図24 障害者とかかわる業務につきたいと思いますか。

く77人 (55.0%)、言葉だけ聞いたことがあると答えた人は59人 (42.1%)、知らないと答えた人は最も少なく4人 (2.9%)であった。卒業時は、内容を含めて知っていると言った人が最も多く131人 (93.6%)、言葉だけ聞いたことがあると答えた人は8人 (5.7%)、知らないと言った人は最も少なく1人 (0.7%)であった。入学時と卒業時の結果において、統計学的に有意差が認められた (p<0.01)。

図17に「精神障害」について知っていますか。の質問に対する結果を示す。

入学時は、言葉だけ聞いたことがあると答えた人が最も多く80人 (57.1%)、内容を含めて知っていると言った人は47人 (33.6%)、知らないと言った人は最も少なく13人 (9.3%)であった。卒業時は、内容を含めて知っていると言った人が最も多く120人 (85.7%)、言葉だけ聞いたことがあると答えた人は20人 (14.3%)、知らないと言った人は0人 (0.0%)であった。入学時と卒業時の結果において、統計学的に有意差が認められた (p<0.01)。

図18に「発達障害」について知っていますか。の質問に対する結果を示す。

入学時は、言葉だけ聞いたことがあると答えた人が最も多く71人 (50.7%)、内容を含めて知っていると言った人は63人 (45.0%)、知らないと言った人は最も少なく6人 (4.3%)であった。卒業時は、内容を含めて知っていると言った人が最も多く118人 (84.3%)、言葉だけ聞いたことがあると答えた人は21人 (15.0%)、知らないと言った人は1人 (0.7%)であった。入学時と卒業時の結果において、統計学的に有意差が認められた (p<0.01)。

図19に「脳性麻痺」について知っていますか。の質問に対する結果を示す。

入学時は、言葉だけ聞いたことがあると答えた人が最も多く74人 (52.9%)、知らないと言った人は41人 (29.3%)、内容を含めて知っていると言った人は最も少なく25人 (17.9%)であった。卒業時は、内容を含めて知っていると言った人が最も多く124人 (88.6%)、言葉だけ聞いたことがあると答えた人は16人 (11.4%)、知らないと言った人は0人 (0.0%)であった。入学時と卒業時の結果において、統計学的に有意差が認められた (p<0.01)。

図20に「ダウン症候群」について知っていますか。の質

問に対する結果を示す。

入学時は、言葉だけ聞いたことがあると答えた人が最も多く67人 (47.9%)、内容を含めて知っていると言った人は66人 (47.1%)、知らないと言った人は最も少なく7人 (5.0%)であった。卒業時は、内容を含めて知っていると言った人が最も多く129人 (92.1%)、言葉だけ聞いたことがあると答えた人は11人 (7.9%)、知らないと言った人は0人 (0.0%)であった。入学時と卒業時の結果において、統計学的に有意差が認められた (p<0.01)。

図21に「自閉症」について知っていますか。の質問に対する結果を示す。

入学時は、内容を含めて知っていると言った人が最も多く76人 (54.3%)、言葉だけ聞いたことがあると答えた人は60人 (42.9%)、知らないと言った人は最も少なく4人 (2.9%)であった。卒業時は、内容を含めて知っていると言った人が最も多く126人 (90.0%)、言葉だけ聞いたことがあると答えた人は14人 (10.0%)、知らないと言った人は0人 (0.0%)であった。入学時と卒業時の結果において、統計学的に有意差が認められた (p<0.01)。

図22に「摂食嚥下障害」について知っていますか。の質問に対する結果を示す。

入学時は、知らないと言った人が最も多く69人 (49.3%)、言葉だけ聞いたことがあると答えた人は57人 (40.7%)、内容を含めて知っていると言った人は最も少なく14人 (10.0%)であった。卒業時は、内容を含めて知っていると言った人が最も多く126人 (90.0%)、言葉だけ聞いたことがあると答えた人は12人 (8.6%)、知らないと言った人は2人 (1.4%)であった。入学時と卒業時の結果において、統計学的に有意差が認められた (p<0.01)。

## 5. 現在の心境

図23に障害者歯科に興味がありますか。の質問に対する結果を示す。

入学時は、どちらともいえないと言った人が最も多く63人 (45.0%)、あると言った人は50人 (35.7%)、ないと言った人は最も少なく27人 (19.3%)であった。卒業時は、あると言った人が最も多く63人 (45.0%)、どちらともいえないと言った人は61人 (43.6%)、ないと答えた人は最も少なく20

人 (11.5%) であった。入学時と卒業時の結果において、統計学的に有意差が認められた ( $p<0.05$ )。

図24に障害者とかかわる業務につきたいと思いますか。の質問に対する結果を示す。

入学時は、どちらともいえないと答えた人が最も多く83人 (59.3%)、そう思わないと答えた人は36人 (25.7%)、そう思うと答えた人は最も少なく21人 (15.9%) であった。卒業時は、どちらともいえないと答えた人が最も多く82人 (58.6%)、そう思うと答えた人は31人 (22.1%)、そう思わないと答えた人は最も少なく27人 (19.3%) であった。入学時と卒業時の結果において、統計学的に有意差はなかった。

## 考察

本研究は、歯科衛生科学生に対して障害児者教育をどのように進めていくかを検討する目的で、入学時の障害児者に対する意識調査の結果と卒業時の結果を比較して、歯科衛生科での3年間でどのように障害児者への意識が変化したか検討した。質問項目は、障害者基本計画の基本的な考え方について5項目、障害者施策について5項目、障害者との触れ合い、体験について4項目、知識に関すること8項目、現在の心境について2項目とした。

### 1. 障害者基本計画の基本的な考え方について

国や地方公共団体は、「共生社会」の考え方に基づいて、障害のある人もない人も共に生活できるための環境作りを進め「社会のバリアフリー化」をめざしている。また、障害や障害のある人に関する理解を深めるために、毎年12月3日から12月9日までの1週間を「障害者週間」として、さまざまな取り組みをしている。

「共生社会」という考え方を知っていますか。の質問に対して、入学時と卒業時を比較すると有意差が認められた ( $p<0.01$ )。共生社会の考え方について知っている人が、入学時は12.1%、卒業時は47.2%であり、卒業時に有意に多かった。歯科衛生科での3年間のカリキュラムの中で「共生社会」について学んだため有意差が認められたと考えられる。一方、卒業時に「共生社会」について知らないと答えた人が16.4%であり、今後の検討が必要である。「共生社会」の考え方については、入学時と卒業時を比較すると、統計学的に有意差が認められた ( $p<0.05$ )。卒業時は、入学時と比較して、そう思うと答えた人が増え、そう思わない、どちらともいえないと答えた人が減っており、歯科衛生科で学んだことで、ノーマライゼーションの考え方を理解したと考えられる。「障害者週間」を知っていますか。の質問に対して、入学時と卒業時を比較すると有意差が認められた ( $p<0.01$ )。障害者週間を知らない人が、入学時は85.7%であったが、卒業時には69.3%であり、有意に減少した。卒業時に知らない人が減少したが、約7割の人が障害者週間を知らないため、今後理解を深めさせる必要があると考えられる。「社会のバリアフリー化」という考え方を知っていますか。の質問に対して、入学時と卒業時を比較すると有意差が認められた ( $p<0.01$ )。社会のバリアフリー化という考

え方を知っている人が、入学時は54.3%、卒業時は80.0%であり、卒業時に有意に多かった。また、入学時は、言葉だけ知っている人が多かったが、卒業時は、内容を含めて知っている人が増え、歯科衛生科で学んだことで、社会のバリアフリー化という考え方を知っている人が増えたと考えられる。「社会のバリアフリー化」の考え方については、入学時と卒業時を比較すると、統計学的に有意差が認められた ( $p<0.01$ )。卒業時は、入学時と比較して、そう思うと答えた人が増え、歯科衛生科で学んだことで、社会のバリアフリー化の考え方を理解したと考えられる。

以上のことから、障害者基本計画の基本的な考え方について入学時と卒業時を比較すると、共生社会の認知、共生社会の考え方、障害者週間、社会のバリアフリー化の認知、社会のバリアフリー化の考え方については、歯科衛生科の3年間のカリキュラムにより、卒業時に理解した人が多くなったが、認知していない人、理解していない人に関しては、今後理解を深めるように教育するカリキュラムを検討する必要がある。

### 2. 障害者施策について

歯科衛生士は、地域保健の中で公衆衛生活動を行う際に、現在どのような施策が実施されているかを把握して活動を行うことが必要とされる。今回は「障害者基本法」「障害者基本計画」「障害者自立支援法」「アジア太平洋障害者の十年」「障害者権利条約」の周知度について調査を行った。

「障害者基本法」を知っていますか。の質問に対して、入学時と卒業時を比較すると、統計学的に有意差が認められた ( $p<0.01$ )。言葉だけ聞いたことがあると答えた人が、入学時は36.4%、卒業時は70.0%であり、卒業時に有意に多かった。内容を含めて知っている人と答えた人は、入学時は5.0%、卒業時は10.0%であり、卒業時に多くなったが、90.0%の人は卒業時においても、内容を理解していなかった。障害者基本法については、歯科衛生科で学んだことで、法律名は知っている人が増えたが、内容まで知っている人は少なく、今後の課題となった。「障害者基本計画」を知っていますか。の質問に対して、入学時と卒業時を比較すると、統計学的に有意差が認められた ( $p<0.01$ )。言葉だけ聞いたことがあると答えた人が、入学時は15.7%、卒業時は50.0%であり、卒業時に有意に多かった。内容を含めて知っている人と答えた人は、入学時は0.0%、卒業時は2.9%であった。障害者基本計画については、歯科衛生科で学んだことで、計画を知っている人が増えたが、内容まで知っている人は少なく、今後の課題となった。「障害者自立支援法」を知っていますか。の質問に対して、入学時と卒業時を比較すると、統計学的に有意差が認められた ( $p<0.01$ )。言葉だけ聞いたことがあると答えた人が、入学時は44.3%、卒業時は57.9%であり、卒業時に有意に多かった。内容を含めて知っている人と答えた人は、入学時は5.7%、卒業時は36.4%であり、卒業時に有意に多かった。障害者自立支援法については、歯科衛生科で学んだことで、法律名、内容を知っている人が増えたと考えられる。「アジア太平洋障害者の十年」

を知っていますか。国連は平成18年12月「障害者権利条約」採択しましたが、あなたはこのことを知っていますか。の質問に対して、入学時と卒業時を比較すると、2項目のいずれにおいても、統計学的に有意差が認められなかった。知らないと答えた人が最も多く、今後の課題である。

以上のことから、障害者施策について入学時と卒業時を比較すると、卒業時には、言葉として聞いたことがある人は多くなっていたが、内容まで知っている人が少ないことがわかった。歯科衛生士として地域医療、地域保健活動を担っていく際には、一般の方へ助言、指導する立場になるため、障害者施策に関しても、今後理解を深めるように教育する必要がある。

### 3. 障害者との触れ合い、体験について

歯科衛生科に入学した学生が、入学後にどのような体験をしたかを把握するため、以下の4項目について検討した。身近に障害のある方がいますか。またはこれまでにいたことがありますか。の質問に対して、歯科衛生科入学時と卒業時を比較すると、有意差は認められなかった。障害のある方と話したり、手助けをしたことがありますか。の質問に対して、入学時と卒業時を比較すると統計学的に有意差が認められた ( $p<0.01$ )。あると答えた人が、入学時は77.1%、卒業時は95.7%であり、卒業時に有意に多かった。障害児者について学んだことがありますか。の質問に対して、入学時と卒業時を比較すると統計学的に有意差が認められた ( $p<0.01$ )。あると答えた人が、入学時は35.0%、卒業時は98.6%であり、卒業時に有意に多かった。障害児者の口腔内を観察したことがありますか。の質問に対して、入学時と卒業時を比較すると統計学的に有意差が認められた ( $p<0.01$ )。あると答えた人が、入学時は4.3%、卒業時は95.7%であり、卒業時に有意に多かった。

歯科衛生科での3年間のカリキュラムの中に、障害児者について学ぶ科目、体験的な実習があるため、入学時と卒業時で有意差が認められたと考えられる。

### 4. 知識に関する項目

歯科衛生科に入学した学生が、入学後にどのような知識が増えたのかを把握するため、以下の8項目について検討した。

「身体障害」「知的障害」「精神障害」「発達障害」「脳性麻痺」「ダウン症候群」「自閉症」「摂食嚥下障害」の全ての項目において、入学時と卒業時を比較すると統計学的に有意差が認められた ( $p<0.01$ )。8項目ともに、卒業時は、内容を含めて知っていると答えた人が入学時よりも増加していた。歯科衛生科での3年間で学習し、歯科衛生士として、当然知っておかなければならない知識である。どの項目も約90%の人は良く理解しているが、残りの10%の人は、内容までの理解が不足していた。今後は、理解できていない人に対して、どのように指導していけばいいか検討しなければならない。

### 5. 現在の心境

歯科衛生科で講義、実習を体験し、入学時とどのように心境が変化したかを把握するため、2項目について検討した。障害者歯科に興味がありますか。の質問に対して、入学時と卒業時を比較すると統計学的に有意差が認められた ( $p<0.05$ )。卒業時は、あると答えた人が最も多く45.0%、入学時は、どちらともいえないと答えた人が最も多く45.0%であった。歯科衛生科で学んだことで、障害者歯科に興味を持つ人が多くなったことがわかった。障害者とかかわる業務につきたいと思いませんか。の質問に対して、入学時と卒業時を比較すると、統計学的に有意差はなかった。どちらともいえないと答えた人が入学時、卒業時とも多く、今後検討していきたい。

### 結論

歯科衛生科学生に対して、障害児者教育をどのように進めていくかを検討する目的で、障害児者に対する意識調査を歯科衛生科入学時と卒業時に実施した結果、以下の結論を得た。

1. 障害者基本計画の基本的な考え方について入学時と卒業時を比較すると、共生社会の認知、共生社会の考え方、障害者週間、社会のバリアフリー化の認知、社会のバリアフリー化の考え方については、卒業時に理解した人が多くなったが、認知していない人、理解していない人に関しては、今後理解を深めるように教育するカリキュラムを検討する必要がある。
2. 障害者施策について入学時と卒業時を比較すると、卒業時には、言葉として聞いたことがある人は多くなっていたが、内容まで知っている人が少ないことがわかった。歯科衛生士として地域医療、地域保健活動を担っていく際には、一般の方へ助言、指導する立場になるため、障害者施策に関しても、今後理解を深めるように教育する必要がある。
3. 障害児者について学んだことがあるか、障害児者の口腔内を観察したことがあるか、の質問に対して、入学時と卒業時を比較すると、卒業時に有意に多かった。歯科衛生科での3年間のカリキュラムの中に、障害児者について学ぶ科目、体験的な実習があるため、入学時と卒業時で有意差が認められたと考えられる。
4. 「身体障害」「知的障害」「精神障害」「発達障害」「脳性麻痺」「ダウン症候群」「自閉症」「摂食嚥下障害」の全ての項目において、卒業時は、内容を含めて知っていると答えた人が入学時よりも増加していた。どの項目も約90%の人は良く理解しているが、残りの10%の人は、内容までの理解が不足していた。今後は、理解できていない人に対して、どのように指導していけばいいか検討しなければならない。
5. 障害者歯科に興味があるか、の質問に対して、卒業時はあると答えた人が最も多く45.0%、入学時はどちらともいえないと答えた人が最も多く45.0%であった。歯科衛生科で学んだことで、障害者歯科に興味を持つ人が多くなったと考えられる。

## 参考文献

- 1) 厚生統計協会：国民衛生の動向（厚生指標，臨時増刊，2010），厚生統計協会，東京，2010.
- 2) 内閣府編：障害者白書，平成21年度版，国立印刷局，東京，2009.
- 3) 後藤田宏也，田中陽子，他：歯科衛生士養成機関における障害者歯科学の講義の現状. 障歯誌，28：34-39，2007.
- 4) 後藤田宏也，田中陽子，他：歯科衛生士養成機関における障害者歯科学の実習の現状—修学年限および実習の実施形態による検討—. 障歯誌，29：133-139，2008.
- 5) 妻鹿純一，後藤田宏也，他：歯学部および歯科衛生士養成施設における障害者歯科学教育に関する調査. 障歯誌，29：115-125，2008.
- 6) 堀部晴美，金子憲章，他：養護学校における食事・歯磨き介助に対する短大学生の意識調査. 全国大学歯科衛生士教育協議会会誌，1：19-25，2007.
- 7) 後藤田宏也，笹井啓史，他：歯学部学生の障害者に関する意識調査—総理府との比較—. 日歯教誌，20：366-373，2005.
- 8) 堀雅彦，岡崎好秀，他：歯学部学生に対する小児歯科学観点からの障害児歯科学教育について—講義前後のアンケート調査の比較—. 障歯誌，27：120-127，2006.
- 9) 後藤田宏也，梅澤幸司，他：障害者に関する歯科学生の意識調査—障害者歯科学講義の受講前後の比較—. 障歯誌，27：28-35，2006.
- 10) 東納恵子，香月真理子，他：歯科衛生士養成所における障害者歯科学教育の現況調査. 日歯教誌，12：96-101，1996.
- 11) 小澤晶子：歯科衛生科学生に対する障害児者教育について—入学時の障害者に関する意識調査—. 鶴見大学紀要，46：1-8，2009.
- 12) 総理府広報室：「障害者に関する世論調査」報告，2007.
- 13) 小澤晶子：歯科衛生科学生 of 障害児者に関する意識調査—障害者に関する世論調査との比較—. 鶴見大学紀要，47：73-77，2010.

